

校内研修動画 & 協議・演習 企画書

| | | | |
|-------------|--|---------------|---------|
| 動画番号 B-2 | 教科等を横断した教育課程の設定 | | |
| ねらい | 教育の目的や目標の実現に必要な教育の内容等を、教科等横断的な視点で組み立て、組織的かつ計画的に教育活動の質の向上を図る。 | 所要時間 (40)分 | 動画(18)分 |
| | | | 演習(20)分 |
| 準備物 | | | まとめ(2)分 |

| パワーポイント | 説明 |
|--|---|
| <p>校内研修動画【B-2】</p> <p>教科等を横断した教育課程の設定</p> <p>愛媛県総合教育センター 教科教育室</p> | |
| <p>愛媛県総合教育センター</p> <p>Ehime Prefectural Educational Research Center</p> | |
| <p>校内研修動画【B-2】</p> <p>教科等を横断した教育課程の設定</p> <p>研修のねらい</p> <p>教育の目的や目標の実現に必要な教育の内容等を、教科等横断的な視点で組み立て、組織的かつ計画的に教育活動の質の向上を図る。</p> | <p>研修動画B-2は、教科等を横断した教育課程の設定です。</p> <p>本研修のねらいは、 「教育の目的や目標の実現に必要な教育の内容等を、教科等横断的な視点で組み立て、組織的かつ計画的に教育活動の質の向上を図る。」ことです。</p> |
| <p style="text-align: center;">研修の内容</p> <p>① 教科等横断的な視点の確認</p> <p>2 教科等横断型教材の開発例の紹介</p> <p>(1) 社会科と国語科</p> <p>(2) 家庭科と国語科</p> <p>3 研究協議</p> | <p>この研修は、次の三つの内容で構成されています。</p> <p>1 教科等横断的な視点の確認</p> <p>2 教科等横断型教材の開発例の紹介</p> <p>3 研究協議 この三つです。</p> <p>3の協議は、動画視聴後に、先生方で行っていただくものです。</p> <p>この研修の目標を、「1の確認や理解」におくのか、「3の研究協議」で、教材の検討をすることにおくのか、事前に確認してから始めると、研修がより効果的に進められます。</p> <p>それでは、1教科等横断的な視点の確認から始めましょう。</p> |
| <p style="text-align: center;">育成を目指す資質・能力の三つの柱</p> | <p>新学習指導要領では、教育目標として「資質・能力の育成」を位置付けています。</p> <p>こちらが、育成を目指す資質・能力の三つの柱の部分です。</p> <p>資質・能力を総合的に育成するため、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた「アクティブ・ラーニングの視点による授業改善」と「カリキュラム・マネジメントの充実」がキーワードとして、示されています。</p> |

カリキュラム・マネジメントの3つの側面

- ① 各教科等の教育内容を相互の関係で捉え、学校の教育目標を踏まえた教科横断的な視点で、その目標の達成に必要な教育の内容を組織的に配列していく。
- ② 教育内容の質の向上に向けて、子供たちの姿や地域の現状等に関する調査や各種データ等に基づき、教育課程を編成し、実施し、評価して改善を図る一連のPDCAサイクルを確立する。
- ③ 教育内容と、教育活動に必要な人的・物的資源等を、地域等の外部の資源も含めて活用しながら効果的に組み合わせる。

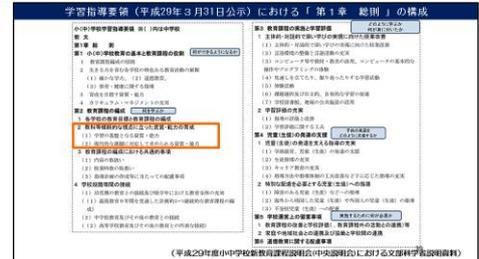
(平成29年度小中学校新教育課程説明会(中央説明会)における文部科学省説明資料)

文部科学省は、「カリキュラム・マネジメントの3つの側面」についても示しています。

- ①教科等横断的な視点で、その目標の達成に必要な教育の内容を組織的に配列していくこと。
- ②改善を図るPDCAサイクルを確立すること。
- ③人的・物的資源等を活用していくこと。

この三つです。

この研修動画では、①に着目した内容を取り上げていきます。



「教科等横断的な視点に立った資質・能力の育成」について、総則を確認します。

小学校学習指導要領 第1章 総則
第2 教育課程の編成

2 教科等横断的な視点に立った資質・能力の育成

(1) 各学校においては、児童の発達の段階を考慮し、言語能力、情報活用能力(情報モラルを含む。)、問題発見・解決能力等の学習の基盤となる資質・能力を育成していくことができるよう、各教科等の特質を生かし、教科等横断的な視点から教育課程の編成を図るものとする。

(2) 各学校においては、児童や学校、地域の実態及び児童の発達の段階を考慮し、豊かな人生の実現や災害等乗り越えて次代の社会を形成することに向けた現代的な諸課題に対応して求められる資質・能力を、教科等横断的な視点で育成していくことができるよう、各学校の特色を生かした教育課程の編成を図るものとする。

教科等の枠組みを踏まえて育成を目指す資質・能力については、各教科等の目標や内容において整理されています。指導に当たっては、教科等ごとの枠の中だけではなく、教育課程全体を通じて目指す教育目標の実現に向けた各教科等の位置付けを踏まえ、教科等横断的な視点をもってねらいを具体化したり、他の教科等における指導との関連付けを図りながら、幅広い学習や生活の場面で活用できる力を育むことを目指したりしていくことも重要です。

また、変化の激しい社会の中で、主体的に学んで必要な情報を判断し、よりよい人生や社会の在り方を考え、多様な人々と協働しながら問題を発見し、解決していくために必要な力を、児童一人一人に育てていくためには、あらゆる教科等に共通した学習の基盤となる資質・能力や、教科等の学習を通じて身に付けた力を統合的に活用して、現代的な諸課題に対応していくための資質・能力を、教育課程全体を見渡して育てていくことが重要、と示されています。

- 小学校学習指導要領 第1章 総則**
付録6 「現代的な諸課題に関する教科等横断的な教育内容」
- | | |
|--------------------|-------------|
| ① 伝統や文化に関する教育 | ② 主権者に関する教育 |
| ③ 消費者に関する教育 | ④ 法に関する教育 |
| ⑤ 知的財産に関する教育 | |
| ⑥ 郷土や地域に関する教育 | ⑦ 海洋に関する教育 |
| ⑧ 環境に関する教育 | ⑨ 放射線に関する教育 |
| ⑩ 生命の尊厳に関する教育 | |
| ⑪ 心身の健康の保持増進に関する教育 | |
| ⑫ 食に関する教育 | |
| ⑬ 防災を含む安全に関する教育 | |

「小学校学習指導要領 総則編」の付録6には、「現代的な諸課題に関する教科等横断的な教育内容」として、13のテーマが示され、テーマごとに各教科等のどの部分で取り扱っているかが示されています。教科相互の関連性がよくわかりますので、教科等横断的な内容を検討する際の参考になります。

- 研修の内容**
- 1 教科等横断的な視点の確認
 - 2 教科等横断型教材の開発例の紹介
 - (1) 社会科と国語科
 - (2) 家庭科と国語科
 - 3 研究協議

従来から、「言語活動の充実」が言われており、言語を活用することは、思考そのものの深まりを促したり、学んだ知識及び技能を生活に生かす際の能力の育成にもつながると示されています。

そこで、総合教育センターでは、「言語活動の充実」をベースとした、教科等横断型教材の開発を試みました。

まず、「社会科と国語科の横断型教材」の開発例を紹介します。

2 教科等横断型教材の開発例の紹介 (1) 社会科と国語科

単元 小学校第3学年 社会科「店ではたらく人」
国語科「わたしたちの学校じまん」

| | | |
|--|-----------|---|
| <p>社会科 調べた情報を整理し、販売の仕事と地域の人々の生活の関連を考え、適切に表現することができる</p> | <p>横断</p> | <p>国語科 相手に伝えるように、理由や事例を挙げながら、話の中心が明確になるよう、話の構成を考えることができる</p> |
|--|-----------|---|

課題を発見し、学んだことを生かして解決方法を考え、実践し、伝え、共有し、振り返ることで、学びが深まる

社会科の「店ではたらく人」(東京書籍)と国語科の「わたしたちの学校じまん」(光村図書)の単元で、教科等横断型教材の開発に取り組みました。

内容としては、社会科の「店ではたらく人」で調査を行い、それを国語科の「話す・聞く」学習である「わたしたちの学校じまん」で、調べたお店のじまんで発表しようというものです。

教科書には、「書く」学習で「仕事のくふう、見つけたよ」という内容もありますが、それはスーパーマーケットを調べて、

その報告文を書くという内容であり、教科等横断の取組が比較的容易であるため、「話す・聞く」学習での提案を試みることにしました。

なお、国語科の教科書は光村図書をベースにしていますが、県内で採用されているもう一社の教育出版でも、「話す・聞く」学習である「たからものをしょうかいしよう」において、同様の横断は可能です。

この例では、社会科の「調べた情報を整理し、販売の仕事と地域の人々の生活の関連を考え、適切に表現することができる」と、国語科の「相手に伝わるように、理由や事例を挙げながら、話の中心が明確になるよう、話の構成を考えることができる」という子どもの姿を目指しています。

授業の流れとしては、社会科の内容の調べ学習から始まります。スーパーマーケットに買い物に行く人が多いのはなぜかを話し合い、学習課題を作り、実際に見学に行きます。

見学をして見聞きしたことを、かべ新聞にまとめることで、情報の整理を行います。この整理や振り返りの際に、最終的に発表会を実施してスーパーマーケットの自慢をするように授業計画を立てておくことで、国語科の「話す」内容の学習に、見通しを持ってスムーズに進むことができます。

話す準備をする活動では、何を一番伝えたいのか、そのためにはどのような資料が必要なのか、わかりやすく伝えるためには、発表原稿をどのような組み立てにすればよいかを考え、グループで練習し、互いに助言し合います。話す内容を考えることにより、スーパーマーケットの売り場の工夫、商品の特色、働いている人の様子、お客さんの様子など、自分で見たこと、聞いたことをまとめ、どのように整理すればわかりやすく人に伝えることができるか、自らの学びを見つめながら、深く考える時間が生まれ、学びが深まると考えられます。

国語科では、まとめた内容を、調べに行ったスーパーマーケットの人や家の人に聞いてもらって感想を聞き、振り返りをするので、まとめとします。他者からの評価を受け、学びの成果を可視化することで、児童の充実感や達成感につながり、児童の主体的な学習への取組や、思考力・判断力・表現力の育成に向けた授業改善にもつながることが期待されます。

最後に社会科に戻り、調べたスーパーマーケットをよりよくするためにはどうすればよいかを考え、提案文を書くことで単元全体を振り返ります。

今回の教材例では、標準時数が「店ではたらく人」16時間、「わたしたちの学校じまん」8時間、計24時間のところ、国語科の資料を集める時間2時間を、社会科で実施したため、社会科16時間、国語科6時間、計22時間にすることができました。時間数の削減という点では、大きな効果とは言えませんが、教科を相互に横断することによって、社会科の「調べた情報を整理し、販売の仕事と地域の人々の生活の関連を考え、適切に表現することができる」と、国語科の「相手に伝わるように、理由や事例を挙げながら、話の中心が明確になるよう、話の構成を考えることができる」という目指す子どもの姿は実現でき、さらに、「課題を発見し、学んだことを生かして解決方法を考え、実践し、伝え、共有し、振り返ることで、学びが深まる」ことも達成できると考えます。

また、国語科の、調べたことを文章で書く単元である、光村図書「仕事のくふう、見つけたよ」、教育出版「取材して知らせよう」でも同様の方法で活用することが可能です。こちらの方が、調べ学習に時間を割いており、時数削減の効果は大きくなります。さらに、一つの調べ学習から、「話す・聞く」及び「書く」



両方の単元で表現することも考えられます。

2 教科等横断型教材の開発例の紹介 (2) 家庭科と国語科

単元 小学校第5学年 家庭科「食べて元気に」
国語科「提案文」

家庭科：課題解決学習
食品グループのバランス
等を考え、みそしるの
実を工夫する

国語科：書くこと
自分の考えが伝わるよ
うに、構成や書き表し方
を工夫する

横断

○家庭科は、国語科と連携を図ることで、家庭科の課題解決学習において思考・判断した成果（意思決定や工夫点等）についてその根拠や提案理由を明確にして表現することができる。
○国語科は、家庭科と連携を図ることで、必然性のある学習課題を設定することができ、書く活動に対する学習意欲が高まる。

次に、「家庭科と国語科の横断型教材」の開発例を紹介します。内容としては、家庭科の「食べて元気に」の単元で学んだ知識・技能を生かして、課題解決学習に取り組み、その成果をまとめて相手に伝える時間として国語科「提案文」の単元へと、教科を横断させる、というものです。

なお、国語科の教科書は、教育出版をベースにしていますが、光村図書の「すいせんする文章」でも、同様の横断は可能です。教科を相互に横断することによって、家庭科の「課題解決学習」において、思考・判断した成果について、その根拠や提案理由を、明確に表現できることが、期待できます。また、国語科の「書く活動」において、必然性のある学習課題を設定することができ、児童の学習意欲の高まりが、期待できます。

この例では、家庭科の「日本の伝統的な食文化や栄養のバランスなど、学んだことを生かして、食生活をよりよくしようと工夫する実践的な態度が育つこと」と、国語科の「自分の考えが伝わるように、構成や書き表し方を工夫することができる」という子どもの姿を目指しています。

授業の流れとしては、まず、食生活の基礎的・基本的な学習の後、その学びを生かす＝探究する課題解決学習として、給食献立「みそしる」を考えるとところから始まります。みそしるの実を三つ程度選び、健康などの視点から栄養バランスを考え、1食分の献立を工夫するものです。各自が、「みそしる」の提案内容を決定し、「提案文」を書きます。

家庭科で「みそしる」の提案内容を決定するのと同時期に、国語科で「提案文」の書き方を学習するよう授業計画を立てておくことで、見通しを持ってスムーズに書く活動に進むことができます。

書く活動では、互いに「提案文」を読み合い、感想を伝え合い、各自で推敲し、伝わる「提案文」を完成させていきます。

書くことにより、基本の栄養バランスに加え、色どり、季節感、好み、地域性、切り方など、どんな良さや工夫を伝えようと、児童が自らの学びを見つめ、深く考える時間が生まれます。

結果として、相手に伝わるように書く活動を充実させることにより、「みそしるを工夫する」という探究的な学びが深まると考えられます。

伝え合った後、グループごとに代表の「みそしる」を選出し、さらに、家庭科で、各グループが提案する「みそしる」を、クラス全体で発表し合います。そして、最終的には、クラス全体で話し合い、提案する給食献立「みそしる」を決めます。（クラス代表は一つでなくても構いません。）

この後、クラス全体で選んだ「提案文」を栄養教諭に提出し、栄養教諭が全体に講評を行ったり、給食の実現を図ったりします。もし、給食が実現すれば、学校全体に「提案文」を紹介するなど、更に表現の場を広げていくことも考えられます。

学びの成果を可視化することで、児童の充実感や達成感につながり、自分も調理がしたいという気持ちの高まりや、次の学習活動への意欲につながると考えられます。

児童の主体的な学習への取組や、思考力・判断力・表現力の育成に向けた授業改善にもつながることを期待しています。

教科等横断型教材を開発するにあたり、その「目的を明確にすること」や、教科ごとに「児童の学ぶ姿をイメージすること」がとても重要であると、改めて確認することができました。

次の研究協議では、この点を意識して行ってください。

2 教科等横断型教材の開発例の紹介 (2) 家庭科と国語科
(授業の流れ)

| | |
|---|---|
| <p>3 研究協議</p> <p>① 社会科と国語科の横断型教材の改善 ② 家庭科と国語科の横断型教材の改善 ③ 別の横断型教材の作成</p> <p>①～③のいずれかのテーマで協議し、教材づくりのきっかけを作しましょう。</p> | <p>それでは、ここから、研究協議の時間になります。 こちらの①～③のいずれかのテーマで、協議をして、教材づくりのきっかけを作しましょう。</p> |
| <p>3 研究協議</p> <p>協議のポイント（①、②を例に）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研究の目的、研究の方法は適切か ・学習課題の設定とまとめは、これでいいか ・社会科、家庭科から国語へつなげる流れでよいか ・社会科、家庭科の学習内容、時間数は妥当か ・国語科の学習内容、時間数は妥当か ・振り返りの内容、時間数は妥当か ・研究の成果に無理はないか ・そもそも、実現可能な内容になっているか 等 <p>協議・発表を行い、互いの成果を共有しましょう</p> | <p>テーマ①又は②で協議する場合のポイントは、次のとおりです。</p> <p>ワークシート①又は②を活用し、良い点や改善点、工夫できそうな点などを記入していくと、協議内容を整理しやすく、更にその成果を可視化させることができます。</p> <p>テーマ③「別の横断型教材の作成」に向けて協議する場合は、まず、「学校の教育目標」を確認しましょう。</p> <p>そして、「子どもたちのどのような資質・能力の育成を目指すのか」について確認してから協議を始めると、目標が定まり、考えがまとまりやすくなります。子どもたちが学ぶ姿を具体的にイメージしながら協議し、横断的教材の流れをワークシート③に記入してみてください。</p> <p>班ごとに協議した後、全体で共有する時間をとり、思考を深め合しましょう。</p> <p>それでは、始めてください。</p> |
| <p>校内研修動画【B-2】 教科等を横断した教育課程の設定</p> <p>研修のねらい 教育の目的や目標の実現に必要な教育の内容等を、教科等横断的な視点で組み立て、組織的かつ計画的に教育活動の質の向上を図る。</p> | <p>さて、本日の研修のねらいは、達成できたでしょうか。</p> <p>ぜひ、教科等横断的な視点も意識しながら、組織的かつ計画的に教育活動の質の向上を図り、よりよい指導につなげていただきたいと願っております。</p> <p>お疲れさまでした。</p> |

協議・演習の内容と流れの進行案（案）

| 分 | 内容と流れ |
|----|---|
| 18 | 動画視聴 |
| 20 | <p>協議</p> <p>① 社会科と国語科の横断型教材の改善 ② 家庭科と国語科の横断型教材の改善 ③ 別の横断型教材の作成</p> <p>以上3パターンのワークシートを用意しています。 校内で同一のテーマに取り組んでいただいても構いませんし、グループごとに自由に選択していただいても構いません。</p> |
| 2 | <p>最後に協議内容の共有を図ると、より効果的です。 時間がない場合は、最後のスライドを流して終了してください。</p> |